NO.111

# 蓬左

HÔSA




神道正宗

表紙：129-14 神道正宗（しんとうせいそう） 1冊　江戸初期　31.0cm×23.5cm

## 神道正宗

別名を『中臣祓抄』といい、祝詞「中臣祓」の注釈書である。

中臣祓は、宮内で毎年六月と十二月晦日、および臨時的に催された大祓とその時の祝詞のことで、代々中臣氏が掌っていたことに由来する。この祝詞を唱えることによって一切の罪や穢が神々によって祓い清められるとされ、次第に神道の最重要行事の一つとして神聖視されるとともに、仏教や陰陽道の影響を受けて、神秘化されるようになり、各流派の教義を加えた注釈書が近代に至るまで膨大に書かれた。

本資料もその数多ある注釈書のひとつであり、尾張藩初代藩主徳川義直が自ら編纂した、または編纂を主導したとされてきた書物「敬公御撰述」に数えられている。

「中臣祓」全体を大きく十三段に分け、各段を「神孫降臨段」や「国家経営段」などと項目立てし、難産の際や家づくりの際に唱えるとよいなどと効能を説いている。この構成は、吉田神道系の注釈書に多くみられ、注釈文自体も同様にその系統の注釈書を基本にしているようだ。本資料の特徴は、そこに儒教的な解釈への改編および追記をしているところで、神儒一体論者の義直の意向が反映されていると評されている。

ただし、本資料には著者や成立に関する記述はない。そのため、寛政期に成立した『御文庫御書籍目録』には「源敬様御撰述御書目」に分類されているが、「御編撰ニ而も可有御座哉」、「御著述と八難申奉存候」と注記されている。慶安四年（一六五一）の『御書籍目録』に「中臣祓」としてその存在が確認できるものの、それ以前の記録や蔵書印がないため、当時の者たちも本資料の分類に頭を悩ませたようである。この状況を打破したのが、別本の『中臣祓抄』（徳川林政史研究所蔵）であった。義直の蔵書印が押され、寛永七年（一六三〇）に蔵書となったと推定されるこの資料に記された添削内容がすべて『神道正宗』に清書されているため、御編撰であると判断したようだ。また、林政史研究所所蔵本の草稿本となるまた別の『中臣祓抄』（当文庫蔵）の存在も、『神道正宗』が義直自らあるいは、その命を受けた者が編纂したものである可能性を高めたようである。

なお、寛政二年の校合事業で、本資料もあらためて訓点の統一や注釈の追記が行われた。またそれ以前に名古屋東照宮神官・国学者であった吉見幸和により本資料を批評した『神道正宗評』（当文庫蔵）が書かれている。各人、各時代の「中臣祓」解釈を読み比べるのも面白いかもしれない。

（蓬左文庫　亀井久美子）

【参考文献】
『尾張名古屋の古代学』（名古屋市博物館、一九九五年）
矢崎浩之「徳川義直と堀杏庵―神儒一致論に注目して―」（『国際関係研究』二九、二〇〇九年）

名古屋市蓬左文庫　〒461-0023 名古屋市東区徳川町1001番地　TEL(052)935-2173　FAX(052)935-2174
ホームページ　https://housa.city.nagoya.jp/〈蔵書検索もできます。〉

ご利用案内

■休館日／月曜日（祝日・振替休日のときは直後の平日）※変更することがあります。
令和8年12月14日(月)～令和9年1月4日(月)は特別整理・年末年始により休館します。

■展示室／【開室時間】午前10時～午後5時（入室は午後4時30分まで）

■閲覧室／無料　館外貸し出しはいたしません。
【閉架図書】午前9時30分～午前12時　午後1時～午後5時（請求は午後4時30分まで）　【開架図書】午前9時30分～午後5時
【複写サービス】保存など支障のない範囲で、CD-Rからのプリントアウトまたはマイクロフィルム複写などの方法により行います。
電話・郵便・メールによる申込みも可。

「蓬左」第111号　☆令和8年9月11日発行　☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫　☆年2回発行　☆印刷：菱源（株）

本誌はJSPS科学研究費助成事業「蓬左文庫蔵『銅人経』拓本が秘める歴史資料・史実の徹底解明―古文書学的手法による」（基盤研究（A）・課題番号26H01919）の助成を受けています。